

わたしが学んだこと

私は小学校四年の時、社会見学で水道設備に行きました。そこで、巨大なダムと広大な浄水場に出会いました。その学習で、ダムから採った水が運ばれ飲み水になることを知りました。また、浄水場できれいにしたばかりの水を詰めたペットボトルを貰いました。その水はとてもおいしかったことを覚えています。小学生の私はこれらことに驚き、感激し、そして単純に嬉しかったです。この経験がきっかけで、私達がいつも生活の中で使っている飲み水に興味を持ちました。中学生になった私は、本やインターネットで飲み水が出来るまでの技術を調べました。浄水場では、ダムや川から採った水からゴミをとり除き、砂や泥を沈殿させ、殺菌を行います。そして、水を飲めるようにして各家庭に届けます。単に飲むことが出来る水を供給するだけではありません。おいしい水を作る

奈良市立平城東中学校 三年

加藤 皓

ることも目的としています。高度浄水処理というろ過機能を加えて通常よりもおいしくする技術を実動している地域もあります。一方、日本の水道水の安全性は大変優れています。出来ない水を供給している地域もあります。水道は飲むことが出来、かつおいしいという恩恵を与えていることを知りました。上水道について調べているある日、水道使用料金表をながめていました。そこにはもちろん上水道の料金が載っていました。しかし、それだけではなく下水道の料金もありました。これは、上水道の使用量から計算されて出されたものです。供給された水がそのまま排水されると考えられるからです。私は上水道だけ調べていても、水道の半分しか知ったことにならず、下水も私達の生活の中で大切だと

気付かされました。私はどのようにして汚水をきれいにするのか、下水処理場について調べることになりました。それには自分の目で実際に見たほうが理解しやすいと考えました。地域の下水処理場に連絡をとり、中を見学させてもらうお願いをしました。そして普段見ることの出来ない内部を見学させてもらいました。私が行った下水処理の施設は小学生の時よく遊んだ公園の地下に広がっていました。私達が汚した水の行く場所は下水処理場です。汚水はここできれいにされます。処理場は、汚水中のゴミや砂や泥を沈殿させ、微生物も使って有機物を分解し、ろ過して、川や海に戻します。もし汚水を処理しなければ、富栄養化により、水中の酸素が奪われ、水中生態系に影響を与えてしまいます。これは、私達が他の生物を巻き添えにしてしまうことを意味しています。このようなことを防ぐため、処理場は必要な施設なのです。

しかし、汚水処理には問題があることも見学で教えられました。その一つが、汚水から出る泥やゴミ等処理するために、トラックで運んだり、乾燥させるために多くのエネルギー

ギーを必要とすることです。もう一つは処理で悪臭が発生することです。この臭いのためほとんどの下水処理場は住宅密集地を避けて建設されています。そのため、処理場は私達の生活環境を守るために必要なのに、「迷惑施設」と呼ばれてしまっています。

上水道は健康や快適な生活を、下水処理場は環境の保全を担っている設備です。私が小学四年生の時は、人に教わっていました。しかし今は自分で進んで調べることが出来るようになりました。私が今まで学んできたことを今度は小学校や中学校の後輩に教える番です。世界にはいまだに上水道が備わっていない地域があります。そういった地域の生活環境を改善出来るようにしたいです。また、省エネが叫ばれている今の時代に下水道は多くのエネルギーを使ったり「迷惑施設」と呼ばれたりしています。私はこれらの課題を解決していきたいです。